

学びの流れがわかる、成長が見える

1 一時間の学びが見える

道徳における「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習の流れとポイントをわかりやすく示しました。

1 学習の視点

学習指導要領で示されている四つの視点のどこに該当するかを、色と絵柄で区別して表現しています。

- 自分自身について考える教材
- 人との関わりについて考える教材
- 集団や社会との関わりについて考える教材
- 生命や自然、崇高なものとの関わりについて考える教材

2 導入

教材を通してどんなことを考えていくのか、意識づけをする問いです。

- 教材内容に応じた適切な問いを配置。
- 日常生活での経験を問うもの
- 道徳的諸価値の意味や意義についての、今の考えを問うもの
- 類似した場面での判断や行動を問うもの など

7 六千人の命のビザ

難しい言葉には脚注をつけ、生徒の理解を支援。



一九四〇（昭和十五年）年七月十八日の朝、リトアニアの日本領事館に在住する夫は、いつも同じように軽い朝食をとっていました。夫は、朝食がむと廊下に降りていき、昼食の時間に再び家族の前に顔を見せるのが日課でした。

その朝も夫は夫を見送り、自分の部屋に戻ると、本を読み始めました。いつも、こうして静かな午前が過ぎていくのです。本を閉じて十数行ほど読み進んだ時、ノック音がして、夫が入ってきました。

「あ、ちょっと窓からのぞいてください。」

カーテンを少し開けて、夫はぼんやりと私を見ます。夫のそばに寄り、窓の外をながめ眺めて、私は自分の目を疑いました。建物の周りをびっしりと人の群れが埋めつくしているのです。船乗り、カウナスの中心地から少し離れた高台にあり、人通りもあり、なぐいとも静かだとは思っていません。

それが一夜にして群衆が押し寄せ、動いているのです。「どうして」という思いは私の顔を見ました。夫にも、その理由はつかみきれない様子でした。再び夫は廊下へ降りていき、まもなく上がってきました。

「ポーランドからカウナスの手を渡されたユダヤ人たちが、日本通過のビザを請求しているんだよ。」

外からは見えないように顔を付けていたのですが、それでも窓に私の影が映ったのでしょう。彼らの外では、血走った目をした男たちが顔を赤らめ、絶えうとうとします。

①「六千人の命のビザ」

②「六千人の命のビザ」

③「六千人の命のビザ」

てはビザを書き送っていただけです。もともと体たがふ人でしたが、もうこの頃には実力だけで書き送っているのだからとわかってきました。

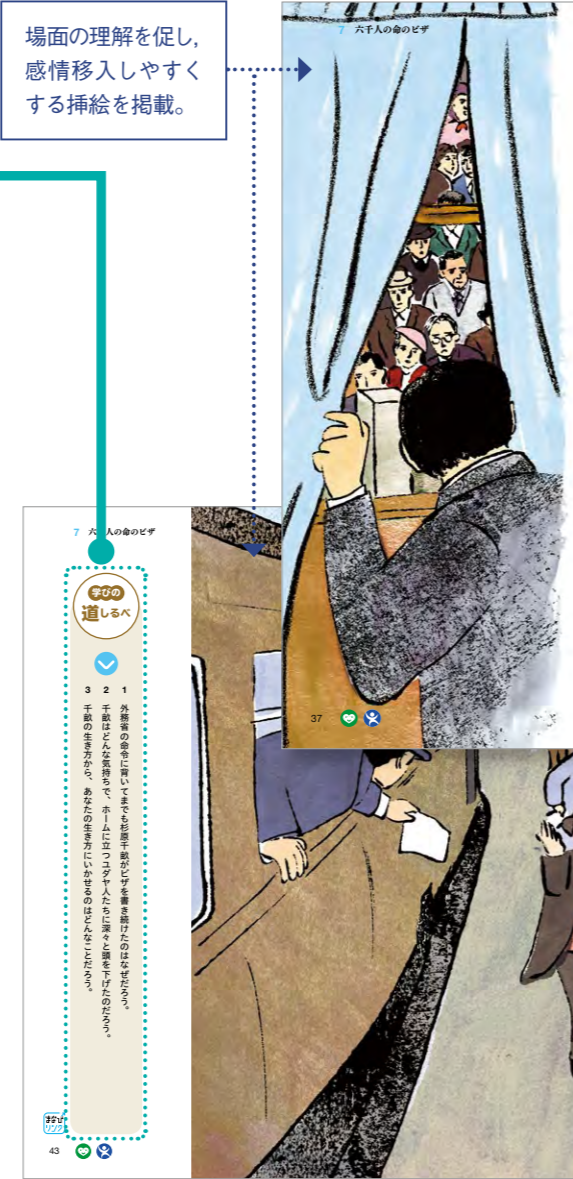
私たちが生きてきたように、海軍、リトアニアはソ連領になった。独立国ではなくなりましたが、すぐ引き揚げろ」という内容の外務省からの電報が届きました。

九月五日の朝、カウナス駅でヘルシンキ行き国際列車を待つことになる時にも、ビザを求めて向人からかまわれています。汽車が来たはずで、窓から身を乗り出して夫は許可を求めました。

夫はもう書くことがなくなりました。私はもう書けない。彼らに代わって書いてあげよう。と、ホームに立つユダヤ人たちに手を下すはじまりました。

すべての教材に著作者名を明示。

▲2年 7 六千人の命のビザ (p.36~43)



場面の理解を促し、感情移入しやすい挿絵を掲載。

3 学びの道しるべ

「何を、どのように」考え、話し合っていくのか、学習の流れをわかりやすく示しています。

- 教材内容にふさわしい問いを三つ掲載。
- 教材をもとに、道徳的諸価値に関わる問題意識をもつ
- 自分自身に引きつけて考える、多面的・多角的に考える
- 道徳的諸価値の理解を深める など

- 三つの問いを連携させて、人間としてのあり方について考え、深い学びにつなげます。
- 学級の実態に合わせて選択し、弾力的に活用していただくこともできます。

授業の流れの例

1 本時の学習の視点を確認する。

2 導入を活用して学習のねらいをつかみ、自分の経験や考えを見つめる。

教材を読む。

3 学びの道しるべを活用して、道徳的諸価値についての理解を深める。

何が問題なのかな。

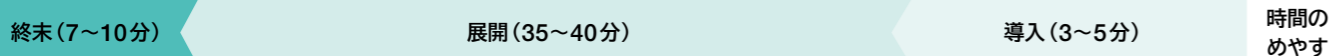
自分だったらどうするだろう。

ほかの見方や考え方もあるのではないかな。

これから自分はどうありたいか考えよう。

学習を振り返り、学んだこと、考えたことをまとめる。

自己を見つめ直す。



学びの流れが
わかる、
成長が見える

2 一年間の学びを見通す

一年間を通してどんなことをどのようにして学んでいくのかをつかむオリエンテーションページを設けました。授業のイメージをもつことで、学習意欲が高まります。

巻頭詩



▲1年 巻頭

取り上げている題材は、巻頭詩の内容と連携しています。

道徳科で 学びを 深めるために

道徳科で学びを深めるために

「どんなことを」「どのようにして」学んでいくのが、具体的にわかります。

道徳開きの授業にも活用できます。

◀1年 道徳科で学びを深めるために(p.4~5)

道徳の学習を始めるにあたって、大切にしてほしい心構えや、これから考えていきたいことを表現しました。

道徳科で考えていきたい社会のさまざまな課題に直結するテーマについて、関連する教材をまとめて示しています。

学年の初めに今の自分を見つめ、目標や抱負をもちます。



▲1年 この教科書で学んでいくテーマ(p.6~7)

各教科や特別活動等と関連させて、カリキュラム・マネジメントを考える際にも役立ちます。

この教科書で 学んでいく テーマ

2年

大切にされているって感じるの、どんなときかな？

カンガエルが下のような看板を見つけました。ふむ、なるほど。大切さが同じとは、どういう意味でしょうか。どうしたら、あなたとわたしの大切さを同じにすることができるでしょうか。考えてみましょう。

**同じです
あなたとわたしの
大切さ**

あてがいは 巻45・巻77
第1章 第2章 第3章

これらの題材を活用して小さな道徳授業を行うことで、学習のイメージをつかむことができます。

3年

私にはどんなカッコイイことができるのかな。

カンガエルが下のような表紙の本を見つけました。ふむ、なるほど。カッコイイとは、どういうことでしょうか。カッコよく生きるために、どんなことを大切にしていきたいですか。考えてみましょう。

**カッコイイ、
どういうこと?**

この本の
巻45・巻77
第1章 第2章 第3章

誰かのためになることをするのもカッコイイことなんじゃないかな。



大切なことかな？

どうやって、どうやって、大切なことかな？

私は、このクラスにあってどんな最高の仲間になれるかな？

最高の仲間だったって、いえるクラスにするために、何ができるかな？

このクラスは、最高の仲間って、いえるのかな？

仲間がいると心強いよね。

このクラスは、最高の仲間になったら素敵だね！

友達いろいろな考えを聞いていると、新しい考えが浮かんでくるね！

- 問題に気づく
- 1 考えたいことは何かを見つけてよう。
 - 2 教材から疑問を発見しよう。
 - 3 友達と考えてみたいことを出し合おう。
- 考え、話し合う
- 1 考えたいことは何かを見つけてよう。
 - 2 疑問に対する自分の考えをもとう。
 - 3 友達と考えを出し合おう。
 - 4 友達の考えをよく聞いて、議論しよう。
 - 5 友達の考えを自分にかきとって、議論をもとに、自分の考えを見直そう。
- 深める
- 1 授業で学んだことをもとに、考えを深めよう。
 - 2 授業で学んだ新たな考えをもとに、自分の心や生き方を見つめて考えを深めよう。
- つなぐ
- 1 学んだことを、これからの生活にどんなふうにかけるか考えよう。
 - 2 学んだことを、いかに活かそう。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となる教科として、学校の重点目標や生徒の実態に応じた、効果的で創意工夫ある指導がしやすい構成を心がけました。カリキュラム・マネジメントがしやすい教科書です。

生徒の発達の段階や生活の実態、学校行事の時期などを考慮した、使いやすい教材配列です。

学習指導要領で示されている四つの視点を、学期ごとにバランスよく配置しています。

1年では

- 生命の誕生をたたえる教材から、道徳授業をスタートします。
- 気持ちもあらたな時期に、挨拶について考えます。
- 生活リズムを整えることの意義を考えます。
- いじめの芽を摘むことを意図して、1年生の早い時期に配置しています。
- 生徒会活動と自分との関わりについて考えます。

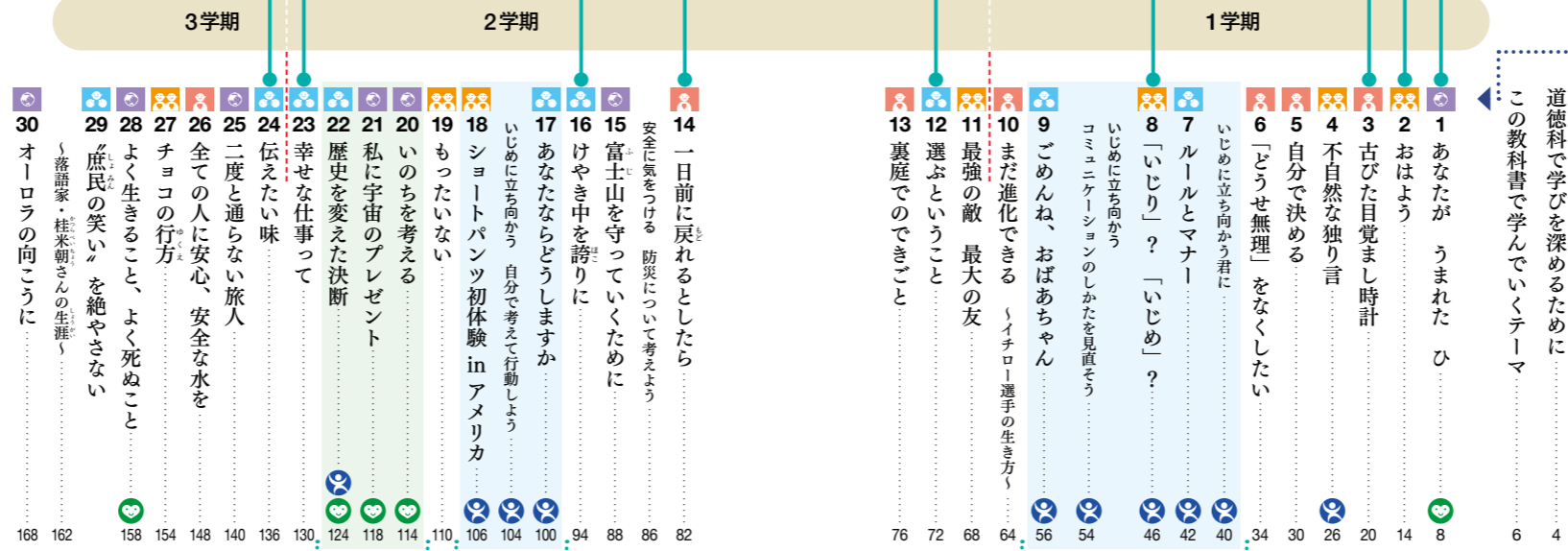
三年間を見通して、系統的に教材を配置しています。

2年では

- 部活動
- 運動会
- 校内音楽祭
- 三年生を送る会 など

3年では

- 修学旅行
- 文化祭
- 面接練習
- 卒業式 など



道徳科で学びを深めるためにこの教科書で学んでいくテーマ

ユニット構成

道徳の学習を通して特に深く考えたい「いじめや差別のない社会」「生命の尊さ」について、複数の教材やコラムでユニットを組んでいます。詳しくは12～15ページをご参照ください。

生命の尊さについて深く考えるユニット

いじめや差別のない社会について深く考えるユニット

差し替え可能な補充教材

郷土資料や自作教材等と差し替えて弾力的にお使いいただくことも可能です。学校の重点目標に応じて、柔軟に年間指導計画をつくることができます。

各教科、総合的な学習の時間、特別活動等との連携については、「検討の観点と内容の特色」教材一覧」もご参照ください。

「資料」都道府県にゆかりのある人物と、その言葉

道徳の学びを記録しよう
これからは生きる皆さんへ

◆切り取って使いましょ

道徳の学びを振り返ろう
一年間の道徳の学びを振り返ろう

「資料」都道府県にゆかりのある人物と、その言葉

道徳の学びを記録しよう
これからは生きる皆さんへ

◆切り取って使いましょ

道徳の学びを振り返ろう
一年間の道徳の学びを振り返ろう

教科書に出てくるマーク

自分自身について考える教材
人との関わりについて考える教材
集団や社会との関わりについて考える教材
生命や自然、崇高なものとの関わりについて考える教材

生命の尊さについて深く考える教材
いじめや差別のない社会について深く考える教材

みんなで話し合ったり、さまざまな立場から考えたり、考えを深めていったりするための参考にしましょう。

活動のページです。実際にその場面を演じたり、よりよい行いの練習をしたりして、教材での学びを深めましょう。(129ページ、81ページ)

学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることが出来ます。

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/ml-jh/dotoku/1.html>

「いじめや差別のない社会」「生命の尊さ」について深く考えることができる教材にはマークをつけています。1年間を通して学べるように、ユニット以外にも配置しています。

学びの流れが
わかる、
成長が見える

3

学びの振り返りをいかし、
成長を認め、励ます評価へ

学びを記録し、振り返ることができるページを充実させました。自分のよさや課題に気づき、未来に向かって進んでいく力を育てます。
生徒の成長を後押しする評価につなげていくこともできます。

道徳の
学びを
記録しよう

一時間ごとの学習の記録です。「授業の記録」の欄に学習の感想を記入していきます。

学んできた教材が、学習指導要領で示された四つの視点ごとに一覧できるようになっています。

▲1年 道徳の学びを記録しよう (p.206~207)

それぞれの言葉で無理なく記入することができます。

これからを
生きる
皆さんへ

一年間の道徳の学習をふまえて、自分の成長を確かめ、これから自分がありたいすがたを、希望や意欲をもって考えます。

学年の初めに書いたことも振り返りながら、これからの自分を考えます。

▲1年p.7

家の人からの言葉をもらうことで、道徳の学習と家庭とをつなぎます。

▲1年 これからを生きる皆さんへ (p.208)

道徳の
学びを
振り返ろう

学期末・学年末に、自分の学びを振り返り、記録することができるページです。提出用に切り離して使うことも可能です。

学期末に

▲1年 巻末

学年末に

▶1年 巻末

「大きくりなまをまを踏まえた評価」につなげていくことができます。

特に心に残った教材(授業)について振り返ります。

生徒自身が「自分が成長したと思うこと」は、認め励ます評価文を作成する際の参考になります。

生徒一人一人の学びを集約して、通知表や指導要録の評価の記述に役立てることができます。

1年間の学習を通じた生徒の変容や成長が把握できます。